

イ 冬蜂の死にどころなく歩きけり

- ① 季語と季節を答えよ。
冬蜂・冬
- ② この句の主観的な表現はどこか。
死にどころなく
- ③ この句は何に對するどういう心情が詠まれているか。
死期が迫った冬蜂に對するあわれみの情

ロ 入れものが無い両手で受ける

- ① 季語と季節を答えよ。
なし(無季)
- ② この句に詠まれているのは、どういう場面か。
無一文の作者が喜捨をもらい受ける場面
〔喜捨〕・貧しい人に施しをする・進んで寺社に寄進する
- ③ 「両手で受ける」には、どういう心情が詠まれているか。
感謝の心

ハ 花衣ぬぐやまつはる紐いろいろ

- ① 季語と季節を答えよ。
花衣・春
- ② 「花衣」とはどういうものか。
花見に着ていく女性の晴れ着
- ③ 「まつはる紐いろいろ」とは、どういう様子か。
花見から帰宅して衣を脱ぎ始めると、色とりどりの種類の紐が衣や体にまとわりついて、すぐには脱げない様子。

ニ みづみづしセロリを噛めば夏匂ふ

- ① 季語と季節を答えよ。
夏・夏
- ② この句に詠まれた「みづみづし」いものを二つ挙げよ。
新鮮なセロリの緑の茎とセロリの新鮮な香気
- ③ どういう場面が詠まれているのか。
夏の朝食にサラダのセロリを食べている場面

ホ 鮫鱈の骨まで凍ててぶちまきける

- ① 季語と季節を答えよ。
鮫鱈・冬
- ② 「鮫鱈」はどんな外見的特徴のある魚か。
頭と口が異常に大きく、体がぐにやぐにやしている
- ③ どんな印象を与える魚か。
グロテスクで滑稽な印象がある
- ④ 「骨まで凍ててぶちまきける」から、何が伝わってくるか。
鮫鱈の宿命的な悲しさや切なさ

ヘ 啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々

- ① 季語と季節を答えよ。
啄木鳥・秋
- ② この句に用いられている表現技巧と、その効果について説明せよ。
「落ち葉をいそぐ」擬人法で晩秋から初冬へと季節が足早に移り行く晩秋の光景をいきいきと表している

ト 春雷や胸の上なる夜の厚み

① 季語と季節を答えよ。

春雷・春

② 「胸の上なる夜の厚み」とは、何か。

寝ている時、胸の上方に広がる深々とした闇の空間

チ じゃんけんて負けて蛭に生まれたの

① 季語と季節を答えよ。

蛭・夏

② この句は、どういう考えや思いを表現したものか。

何に生まれてくるかは、偶然的なものであるという考え

③ この句の「蛭」は、どういうイメージを持つものか。

小さな命を持つ、つつましい存在

(「つつましい」控えめ・遠慮がち)

④ この句の発話者は誰か。二つ以上答えよ。

「蛭」「子ども(女の子)」「母親」

リ がんばるわなんて言うなよ草の花

① 季語と季節を答えよ。

草の花・秋

② 「がんばるわなんて言うなよ」は、誰への呼びかけか。三つ答えよ。

草の花・人(知人の女性)・自分自身

③ この句では、どういうことが主張されているか。

気張るのではなく、自然体の生き方がよいのだという主張